（午後４時10分　再開）

○議長（岡　弘悟君）休憩前に引き続き会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

○議長（岡　弘悟君）順番12、18番　土井君。

〔18番（土井裕美子君）登壇〕

○18番（土井裕美子君）それでは、ただ今、議長のお許しをいただきましたので、一般質問を始めさせていただきます。

今回の質問は１項目でございます。

ＳＮＳなどを用いた観光客誘致の施策についてでございます。

最近では、ＳＮＳなどを利用して観光客誘致に取り組んでいる自治体が多く見られます。既存の名所旧跡や施設を活用するだけでなく、地域に新しいキャッチコピーをつけたり、見せ方を工夫するなどして、全国から観光客を集めています。本市においても、今ある観光資源を活用するだけでなく、ＳＮＳなどを積極的に用いて、新たに観光客を誘致するための仕掛けづくりが必要ではないかと考え、何点か質問をさせていただきます。

①本市においては、ＳＮＳなどをどのように活用しているのか、その媒体と利用状況、誰がどのように発信しているのか、その効果は検証しているのかをお聞かせください。

②ＳＮＳなどを利用した新たな観光客誘致のための仕掛けづくりを考えていますか。ＳＮＳなどの今後の活用方法をお聞かせください。

③市民の方から、恋野橋を新しくかけ替えることをきっかけに、恋野地域を全国に発信し観光客を誘致したいとのお声があるようですが、何か具体的な施策を考えていらっしゃいますでしょうか。

以上、明解な答弁をよろしくお願いいたします。

○議長（岡　弘悟君）18番　土井君の質問、ＳＮＳなどを用いた観光客誘致に対する答弁を求めます。

経済推進部長。

〔経済推進部長（笠原英治君）登壇〕

○経済推進部長（笠原英治君）ＳＮＳなどを用いた観光客誘致の施策についてお答えします。

一点目のＳＮＳの活用状況と効果の検証についてですが、本市では、フェイスブック、ツイッター、ラインアット、インスタグラム、ユーチューブのＳＮＳを活用し、市の情報を発信しています。まず、フェイスブック、ユーチューブは秘書広報課において運営しています。フェイスブックでは、市からのお知らせや災害などの緊急情報、イベント情報など、行政情報全般を幅広く発信しています。ユーチューブでは、動画でわかりやすく、市の魅力やお知らせを伝えるため、「おーい橋本」をはじめ、特産品や縁のある偉人・伝説を題材に、中学生や市民の方との協働で作成した紙芝居動画、そのほか、制度紹介の動画などを配信しています。また、ラインアット、ツイッター、インスタグラムはシティセールス推進課で運用しており、観光や移住・定住、特産品などの切り口で市の魅力を配信しています。ラインアットでは、主に市内の子育て世代や若年層をターゲットとし、自動的に配信されるプッシュ型で子育て・イベント・特産品などのお勧め情報を発信しています。ツイッターでは、はしぼうの出演情報や観光情報などを中心に、イベント時のリアルタイムな配信を行っています。インスタグラムでは、

市内の風景、特産品など橋本市の魅力を写真で配信するとともに、共通のハッシュタグを設定し、キャンペーンなどを通して市民の方からの投稿も呼びかけています。

効果の検証については、各媒体のフォロワー数やいいねの数、インプレッション数、すなわち投稿が表示された回数等を指標として、投稿する頻度や内容の参考にしています。

次に、二点目のＳＮＳなどを利用した新たな観光客誘致の取り組みとしては、インスタグラムを利用し、橋本市の観光情報の露出度を向上させたいと考えています。また、ＳＮＳ講座を開催するなど、市民の方が橋本市の立ち寄りスポットや食べ物、特産品などをインスタグラム等のＳＮＳで発信していくような機運づくりもできればと考えています。

三点目の恋野地域の観光客誘致については、恋野地区は中将姫の伝説があり、ゆかりの名所が数多くあるエリアです。平成26年度から平成28年度には、橋本河南エリア魅力アップ推進協議会において、恋野から学文路にかけた地域の魅力の向上及び情報を発信する取り組みも行われ、当該エリアの観光マップも作成されています。恋野橋のかけ替えによりアクセスが向上することで、観光客も立ち寄りやすい場所になると考えます。地域では観光客を誘致したいとの声があるようですので、恋野橋の活用をはじめ、地域から具体的な提案があれば、市もサポートしながら、恋野地域の観光資源のブラッシュアップや情報発信を行いたいと考えています。

○議長（岡　弘悟君）18番　土井君、再質問ありますか。

18番　土井君。

○18番（土井裕美子君）それでは、①から再質問をさせていただきます。

11番議員がＳＮＳ関係のところにも大分触れていただきましたので、もしかしたら重複する部分がございましたら、答弁のほうは割愛していただいて、短縮バージョンでお答えいただけたらと思います。

フェイスブック、それから、ツイッター、ライン、インスタグラムということで、いまやこのＳＮＳというものが情報発信の本当に重要な位置を占めているということは、当局も十分理解いただいて、本市におきましても当初はフェイスブックだけで開始したことがございますが、いち早く情報発信していただいているということにまずは感謝を申し上げたいと思いますが、しかしながら、情報としていただいております内容を申しますと、いいねの数であるとか、それから、フォロワー数などはいかんせん、まだまだこれからもっともっとしっかりと発信していかなければならない数字なのではないかなというふうに感じております。

と申しますのが、2018年の１月現在で国内のユーザー数は、フェイスブックでは2,800万人、ツイッターは4,500万人、ラインは7,000万人、インスタグラムでは2,000万人という方が見ていただいている、国内だけでですね。世界的に申しますと何億という人が情報を同時に見ることができるわけですから、うまくＳＮＳを活用することによって、市長がいつも申されておられますように、全国だけでなく世界へこの橋本市を発信できるということでございますので、今後も引き続き、しっかりとこの情報発信をしていただきたいなというふうに思っております。

11番議員の問いにも部長は答えていらっしゃいましたので、数値的なことは控えさせていただきますけれども、ただ、それぞれの媒体を運営していただいているんですが、その部署がそれぞれ違っているというふうにご報告をいただいておりますが、秘書広報課であるとか、経済推進部シティセールス推進課で

あるとかそれぞれ違うんですが、運営部署が違うけれども、情報の内容の連携というのはしっかりとなされているのかということを、一つお尋ねしたいと思います。

○議長（岡　弘悟君）経済推進部長。

○経済推進部長（笠原英治君）インスタ、それとラインアットに関しては、経済推進部のシティセールス推進課内で担当させていただいておるわけなんですが、当然、秘書広報課の広報係と詳細にわたって調整しながら発信させていただておる次第でございます。

○議長（岡　弘悟君）18番　土井君。

○18番（土井裕美子君）もちろん連携していただかないといけないわけですが、私もフェイスブックの登録と、それから、ラインの登録はさせていただいておりますが、フェイスブック、当初始められたときは、割と写真を多用されて、写真も記事もしっかりと書けますので、なかなか橋本市も頑張ってフェイスブック更新していただいているなということでよく見せていただいたんですが、最近は、割とフェイスブックに関しましては、市のホームページのほうにぱっと移動して、ホームページの中からまたどんどん開けていくというようなことをとっていらっしゃいますけれども、フェイスブックって、せっかく写真がばんと前面に出てくるものでありますので、できたら初めのころをまた思い出していただいて、写真をぱっと目にできるような形で、いろんなフェイスブックの情報が入ってきますと、私も見せていただきますと、ここに飛んでくださいという形で文字だけですとなかなか食いつきが悪いようにも感じておりますので、その辺、ほかの媒体もしているので、ホームページにとりあえず飛ばしといたらいいかというふうな思いがあるような感じもしないではないんですが、せっかくですので、フェイスブックしか見ていない方もいらっしゃいますから、その辺の工夫を今後、これは秘書広報課になるんですかね。その辺の工夫を今後また、初心に戻ってと言うんじゃないですが、フェイスブックはフェイスブックとしてもっとしっかりとした写真の掲載であるとか、そういうなんをしていただけませんでしょうか。

○議長（岡　弘悟君）総合政策部長。

○総合政策部長（上田力也君）おっしゃるとおり、ＳＮＳではやっぱり視認性というのが非常に大事かなというふうに思いますので、また、フォロワー数が増えるようなそういうのを、いろんな事例もございますし、初心にというお話もありましたので、そういったことで工夫をしていきたいというふうに思います。

○議長（岡　弘悟君）18番　土井君。

○18番（土井裕美子君）よろしくお願いいたします。それと、ラインに関しては、シティセールス推進課定住促進係が割と頻繁に送っていらっしゃるんですが、割と子育てであるとかイベントを中心なんですが、私もいただいているんですけれども、割合、教育委員会サイドからの情報提供というのが何か少ないように感じているんですけれども、シティセールス推進課定住促進係のほうには各課から、うちはこういうイベントをやるのですよということで、各課の職員が必ず何かイベントをするときには、ラインであるとかフェイスブックの担当の係のほうに、こういう情報を発信してくださいというようなことを課として伝達しているのかどうか。特に、教育委員会が少ないように私は感じているのですけれども、その辺のところについてはいかがでしょうか。

○議長（岡　弘悟君）経済推進部長。

○経済推進部長（笠原英治君）ラインアットに関しては、プッシュ型で、一方的にフォロ

ワーの方に情報発信させていただいておるんですが、内容を見ていただいたとおり、経済推進部の内容より、ほかの部署のほうがはるかに多い状況であります。積極的にこのラインアットを利用していただけるように、それぞれの部署のほうにお願いして、お願いがあった場合には、即座に投稿できるような形にはさせていただいておる次第です。教育委員会のほうにもご連絡させていただいておると思いますので、また、改めてお願いしようと思っております。

○議長（岡　弘悟君）18番　土井君。

○18番（土井裕美子君）教育委員会のほうはいかがですか。特に、社会教育ですね。社会教育でイベントが多いかなと思いますし、それから、公民館関係とか学校関係でも、いろいろな人権講演会であるとか、大変いい講演会をたくさんやっていらっしゃいますけれども、比較的そういう情報があまり回ってきていないのではないかなというふうに思うんですが、教育委員会サイドとしてはいかがでしょうか。

○議長（岡　弘悟君）教育部長。

○教育部長（曽和信介君）おただしの件でございますが、まだラインに載せていただくというようなところまで実際はまだいっていないのかなということで、情報提供につきましては、今後、社会教育関係ですとか文化スポーツ関係ですとか、その辺のことにつきましては経済推進部と連携して、情報発信をしてまいりたいと考えています。

○議長（岡　弘悟君）18番　土井君。

○18番（土井裕美子君）ぜひともよろしくお願いいたします。大変いいイベント等をされていらっしゃいますので、それを市民の人がなかなか受けとることができない。市民だけでなくて、ＳＮＳを活用しますと、いろいろなところで広がってまいりますので、橋本市ってすごいいい取り組みをやっていらっしゃるところなんだなということが認識されますので、もう一回周知徹底をされて、せっかくいい取り組みを経済推進部のほうもされていますので、全庁協力してやっていただきたいということをお願いいたしたいと思います。

それと、数字にこだわるのは何なんですけれども、やっぱりフェイスブックとかラインとかインスタグラムとかのフォロワー数がいかんせん、少ないというふうに思います。少なくとも、うちの橋本市で公務員として働いていらっしゃる方々も携帯電話はお持ちでしょうし、そういうメディアを使うこともできるでしょうし、病院関係者も入れますと600人以上にはなるのではないかなと思っておりますので、やはり仕事だから登録しないといけないというのではなく、自分が働いている市がどういうふうな情報発信をしているのかということは、少なくとも全職員はそういうところから自分自身の知識向上という面からいっても、言われなくても登録をしたりとか、常に見ておく必要があるというふうに思うんですけれども、職員に向けて、こういうことをやっているので登録してください、見てくださいというようなことは、どこかの部が言っているのでしょうか、いないのでしょうか。その辺はどうでしょう。

○議長（岡　弘悟君）総合政策部長。

○総合政策部長（上田力也君）市の中に広報委員会という、そういう組織がございます。こちらのほうでできるだけ、強制ではないんですけれども登録をしていただくと。目的というのは、議員おっしゃるとおり、やっぱり自分たちの市の情報というのを連携ということもございますので、そういう意味で、それが自分の知識ともなって、場合によっては仕事にも活用できるということがございますので、それについては働きかけは行っておりま

す。

○議長（岡　弘悟君）18番　土井君。

○18番（土井裕美子君）今後ともしっかりと働きかけをしていただきますと、それだけで多分、登録数は増えますし、そこからどんどん人に拡散していくこともできますので、その辺のところ、よろしくお願いしたいと思います。

それと、②なんですが、ＳＮＳ講座の開設などをされて、大変、頑張って担当課はやっていただいていると思いますが、いかんせんやっぱりラインの登録者数がまだまだ少ないというふうに感じております。毎月の広報の中に、防災はしもとメールの配信について、常に携帯電話用の二次元コード、いわゆるＱＲコードが載るように広報の中にはなったんですが、最近は、ちょっとラインのほうとかは載っていないんですよね、ＱＲコードというのがね。そういうなんは、また拡散するために、フェイスブックであるとかラインのコードであるとか、そういうことを広報に載せるというのは、どのようにお考えになっているんでしょうか。載せられるのでしょうか。

○議長（岡　弘悟君）総合政策部長。

○総合政策部長（上田力也君）過去には載せたこともあるんですけども、頻度は非常に少ないということで、市民向けにも、そういったことも､ラインだけではないんですけども、ほかのＳＮＳもあわせて発信をしていける、そういうコーナーというのもまたつくっていきたいというふうに思っております。

○議長（岡　弘悟君）18番　土井君。

○18番（土井裕美子君）積極的な配信をよろしくお願いいたします。

それと、先ほど、11番議員の質問の中にもご答弁がございましたけれども、平成29年12月16日に開催されました、高野山麓橋本インターカレッジコンペティション2017の公開プレゼンテーションで、最優秀賞に和歌山信愛女子短期大学生活文化ゼミの「はしもとインスタ女子部」というのが選ばれたということをお聞きしております。資料を大分見せていただきましたけれども、なかなかおもしろい取り組みだなというふうに考えております。インスタグラムというのを活用して、女子目線でインスタ映えをするような写真の投稿であるとか､撮影スポットの発掘などをされて、女子部として取り組むという提案でございますけれども、その提案を受けて市としては、今後それをどのように活用されていかれるのかということがちょっと知りたいので、お教えください。

○議長（岡　弘悟君）経済推進部長。

○経済推進部長（笠原英治君）年明け早々に信愛女子短大を訪ねまして、今後の活動について協議させていただいております。12月に参加していただいた学生さんというのは２年生なんで、実はこの３月で卒業されます。そういったところから、先生とお話をさせていただいて、新１年生、新２年生でもってこのインスタ女子部を発足していただけるようになっております。橋本市にも女子部がありまして、その女子部と連携をしていただけたらなというふうな考えを持っております。

テーマも、実は学生のほうからいろいろ考えていただけたらというふうに思っております。その前に、学生にしっかり橋本市のことを勉強していただいて、そこからいろいろテーマを考えていただけたらなと思っております。今度の土曜日に行いますＳＮＳ講座にも出席していただけますし、そういう状況の中で、今後、彼女らの提案にあった外国人観光客に対してどういうアピールをしていくのかとか、拡散していくためにはどうしていけばいいのかとか、場合によってはマップを作成するとか、そういったところを具体的に、今

後、進めていければなというふうに考えておるところでございます。

○議長（岡　弘悟君）18番　土井君。

○18番（土井裕美子君）今、インスタグラムって、とても若い子の間ではやっているんですよね。それが、写真ですので、ある程度細かい言葉が書いてあることもあるんですけれども、世界中からインスタグラムを見てその観光地に行きたいということで、海外のお客さまもその写真の現場で一緒に写真をとりたいということで、大変拡散をしていますので、橋本市としてもなかなかおもしろい取り組みで、若い子のそういうアイデアを使ってやっていただけたら大変うれしいんですが、その提案の中に、橋本市のいろいろな場所を一度に回って見たけれども、なかなかインスタ映えするポイントが見つからないとか、それから、市外の自分たちが橋本市に常にかかわるのはなかなか難しいとかということから、橋本市の公式インスタグラムはまだまだ始まったばかりで改善すべき点はたくさんあるというような、なかなか的確で、なおかつ厳しいご意見があったわけでございます。

そこから私の③の質問に入るわけですが、インスタ映えがするような場所の仕掛けづくりを橋本市としてはしないといけないのではないか。それは、別に行政がしなければならないというのではなく、やはりそこにお住まいの、先ほど市長もおっしゃっていましたけれども、事業者であるとか、そこにお住まいの皆さま方から、自分たちのまちはこのように今後していきたいのだという提案をしていただいて、そこに行政ができる限りのお力添えをさせていただくということが市民協働の基本となっておると思いますし、これからの理想とする形なのかなというふうにも考えておりますので、③の問いなんです。

今、恋野橋のかけ替えが進んでおります。橋桁はあと恋野側が少し残っておりますが、隅田のほうは大分進んでおりまして、恋野橋のかけ替えを契機に、恋野地区といったらなかなかいろんな名所旧跡もありますし、中将姫伝説の中の糸の懸け橋であるとか、中将が森であるとか、雲雀山ですとか、福王寺ですとか、それから、恋野のあじさい園もありますし、本当にたくさん観光スポットがあるわけですけれども、市民の方から地元の声として、恋野という地名の恋野橋、今は漢字の恋野橋ということなんですが、野原の野を平仮名ののにかえて、「恋の橋」という名称にかえてはいかがでしょうかというようなご提案をいただいているわけです。数人がいらっしゃいまして、いろんなアイデアを、若いアイデアを出していただいているわけでございますが、橋には必ずネームプレートというんですかね、橋の名称を書く部分がありますね。そういうところを変えられないのかなとか、そういうことをご提案いただいているわけでございますけれども、橋の名称とか、それから、橋のネームプレートの形であるとか、それから、橋のたもとには、高野橋本橋のたもとにも高野山のオブジェみたいなんがつくってあったと思うんですけれども、ああいうなんというのは県のほうでは、どこの部署が考えてそれを提案されてくるのでしょうか。ちょっと理事、県の建設部のほうにいらっしゃいましたので教えていただけたらありがたいんですけれども。

○議長（岡　弘悟君）理事。

○理事（久保　進君）土井議員のご質問にお答えいたします。

橋のいろいろデザイン、親柱と言うんですけどね、両側に立っている、その辺も含めて、基本的には橋梁の施工サイド、建設のほうで基本的にはやることになっています。ただし、いろいろそれに関しては、地元の意見等も聞

かせていただいて、その上で、できるだけ反映させていただけるような、そういう形になるかと思います。

それから、先ほどの橋の名前なんかにしても、これも現在、橋にしても、トンネルにしても、その名称とかはやっぱり地元の意向等もございますので、その辺は意見を聞かせていただいた上で最終決定するというような形になるかと思います。

○議長（岡　弘悟君）18番　土井君。

○18番（土井裕美子君）わかりました。地元からの要望があれば、ある程度はできる範囲であればやっていただけるかもしれないというふうに認識をいたしました。地元からちょっとお預かりをしている、これは別に任意の団体でも何でもないんで、一般の方たちがちょっと集まって、座談会的にこんなふうになったらおもしろいよねという提案があったので、ちょっとご紹介をさせていただきたいと思うんですが、新恋野橋を活用して恋野地域を活性化するプロジェクトを立ち上げたい。「恋野をハートあふれる恋愛の聖地にしよう」というそういう提案が今ございます。先ほど申し上げました恋野橋という漢字の橋を、恋野の野というところの部分を平仮名に変えると、恋の橋になるわけでございますから、中将姫ゆかりの恋野を恋人同士で巡り、ハートマークを一緒に探そうみたいな感じで、インスタ映えができるような恋のフォトスポットをつくって、みんなに来ていただきたいというような、そういう取り組みをしたらどうかなという提案でございます。

できますならば、無理かもしれませんけれども、橋の色を恋をイメージする色、例えば、ピンクであるとか、それから、恋野出身の溝端淳平君が「赤い糸」という映画に主演しておりますので、白地にすーっと赤い糸を引くようなアイデアであるとか、それから、橋には欄干がございますね。欄干の間、間にハートのマークを入れるとか、それから、大きなマークでなくてもいいので、ディズニーランドに行った方はいらっしゃると思うんですけれども、隠れミッキーというのがあるんですよね。それをみんな必死で探すわけですよ。そういうふうな形で隠れハートを探すとかですね。それからもう一つ、橋のたもとにハート形のオブジェを置いて、そのハート形のオブジェを恋人同士でなでると、その恋が成就するとか、そういういろんな若い方たちのアイデアがどんどん出てきておりまして、それから、やっぱりインスタグラムを活用するというのが大事でございますので、インスタ映えするようなハートの形の場所をつくったりとか、観光客が集えるスポットであるとか、恋に関係するような草花を植えたり、それから、ハート型の絵馬を赤い糸で結びつける場所をつくるであるとか、そういういろんなことを恋野として、せっかく恋の橋ができるわけですから、それを活用しない手はないよねということでちょっと盛り上がっているわけでございまして、何とか市のほうにもそれをご協力いただきたいなと思っているわけでございます。

和歌山県では今２箇所、恋人たちの聖地に認定されている場所がございます。１箇所は、和歌山のマリーナシティが恋人の聖地というふうに認定されて、２箇所目が、白浜の東尋坊が恋人たちの聖地と認定されて、ハート形のモニュメントにカップルたちの願いごとや愛を誓った南京錠をかけて、大変、以前は自殺の名所ということで言われましたけれども、今はそれを逆手にとって、恋人たちの愛の名所にしようという形でそういうふうに登録認定もされています。

それから、ちょっとこういう書類で申しわけないんですけれども、島根県の山中に恋が

かなう恋山形駅という駅があるんです。インターネットで調べていただいたらばっと出てくるんですけれども、駅舎が全部ピンク色で、ちゃんと写真映えするような、こういうほんまに真っピンクの駅があって、これは何と最初は駅の名前が恋と違ったんですよ。予定では因幡山形駅というおかたい名前だったらしいんですが、住民の強い要望で人を呼ぶ来いと恋をかけ合わせて、恋山形駅にしたと。でも、大変地味だったので、いっそのこと、駅舎をみんなピンクに塗っちゃえということで、ピンクに塗ることで１年目がスタートした。そしたら、何とそれが瞬く間にインターネットとかで広がって、さらに住民たちが２年目記念として、恋がかなう鐘をつけようかということで駅舎の横に鐘をつけたり、何と３年目記念は恋ポストって、ポストなんですけども、郵便局が実際につけたわけじゃなくて、勝手に地元に人がつけていて、週１回だけ自分たちで回収して郵便局に持っていくという、そういうことをされているんですけれども、４周目には恋ロードとして、駅の道をピンク色に塗って、その中にハートを散りばめて、そういうような地元の方が何とかここで、明るい話題で人を呼びましょうという形でいろんな取り組みをされている駅もございます。

わざわざ恋という名前がついていないのにもかかわらず恋という名前にした駅もあるのでございますし、何と恋野は何も名前を変えなくても恋の橋でございますので、それを生かさん手はないよなというふうに、やっぱり地元の人も考えていらっしゃいますし、私もそれを聞いたときには、「なるほど、そのとおりですよね」って。恋が成就すると、年に１回、カップルが誕生したら、市全体でお祝いをしてあげようとか、あじさい園で披露宴を挙げてあげようとか、ほかにもいろんな施設があるじゃないですか。隅田には国宝の隅田八幡宮がありますし、福王寺には中将姫の碑もございますし、あじさい園もございますし、それから、学文路のほうにはくにぎ広場であるとか、いろんな名所、旧跡、それから、駅といえば隅田駅も、中学生がしてくれたペイントもございますし、いろんな名所、旧跡を巡りながらやっていきたいなというアイデアがどんどん盛り上がってきておるので、何とか、まず、名称を「恋の橋」に変えていただきたいということと、それから、できますならば、橋の色を恋愛を想像させるようなピンクの色にしていただきたいなという、そういう要望があるんですけれども、もし地元からそういう要望が上がったときには、市のほうはどのような形で後押しをしていただけますでしょうか。

理事。

○議長（岡　弘悟君）理事。

○理事（久保　進君）市のほうで全部というのはちょっと難しいかもわかりません。それから、先ほどからいろいろお話をいただいておるんですけども橋の色、これは既に設計が終わって、橋の桁ですね。あれは耐候性鋼材といいまして、鉄のところに黒いさびをつけて安定化させて腐食せんようにするというような、そんな工法をとっております。だから、橋の桁とかそういうところはちょっと無理かというふうに思います。

あと、全体の設計も既に全て終わっていまして、現在、ピアといいまして橋脚２基、だいたい仕上がりつつあるんですけども、あと、橋台といいまして両端の桁を支える部分、その分を施工した後に、また桁をかけていくというふうになると思います。桁の部分はちょっと難しいとは思います。

それから、ハートの分についてもちょっとどうかというのはいろいろあるところかと思います。建設サイドの予算的にはちょっと難

しい部分もあるかと思いますので、うちの経済推進部のほうへちょっと前に来ていただいて、お話を聞かせていただいておると思うんですけども、その中で、やっぱりできるものとできやんもんといろいろあるだろうというのもあるし、一応、県のほうには話はしています。こんな地元としての話が出る。また、正式に先ほど部長のほうも答弁させていただきましたように、具体的な提案があれば、また県のほうにも働きかけたりとか､それから、橋サイドだけでだめでしたら、ほかの観光サイドの予算とかがないんかとかというようなやり方はいろいろあると思いますので、具体的な提案をいただきましたら、また働きかけも含めて、支援させていただきたいというふうに思います。

○議長（岡　弘悟君）18番　土井君。

○18番（土井裕美子君）ありがとうございます。地元では、早速、協議会のようなものを立ち上げて、具体的な話を煮詰めていこうというような動きもございますし、その協議会の立ち上げにあたっては、市のほうにもいろんなアドバイスしていただかないといけない部分もございますので、経済部長、そういう協議会を立ち上げるにあたって、いろんな市サイドとしての協力体制というのをお願いできますでしょうか。

○議長（岡　弘悟君）経済推進部長。

○経済推進部長（笠原英治君）市長を含め３役とご相談させていただきながら、対応させていただこうと思っております。経済推進部としてなかなか、それじゃ、しっかり協議会に入ってというお答えは、現時点ではちょっと難しいと思います。

○議長（岡　弘悟君）18番　土井君。

○18番（土井裕美子君）３役と相談して、別に補助金をくれとか、そんなことは言っていませんし、本当に橋本市がいかに全国、世界に発信できるのかということを、市民レベルの皆さまが一生懸命考えていただいていますので、ぜひとも市の何らかの形でご協力いただきまして、また、地元要望が上がってまいりましたならば、県のほうにも、市としてもこれは大賛成でやっていきたいんだよというような形の後押しをしっかりしていただきたいというふうに思っておりますので、その節はどうぞよろしくお願いしますというお願いをいたしまして、私の質問は終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（岡　弘悟君）18番　土井君の一般質問は終わりました。

○18番（土井裕美子君）すいません、私は早口で、白浜は東尋坊じゃなくて三段壁でございますので、その辺のところ、申しわけございません。東尋坊ではなく三段壁でございますので、訂正のほどよろしくお願いしたいと思います。

○議長（岡　弘悟君）福井県の東尋坊ではなくて、和歌山の三段壁ということです。訂正よろしくお願いいたします。

○議長（岡　弘悟君）18番　土井君の一般質問は終わりました。

○議長（岡　弘悟君）お諮りいたします。

本日の会議はこの程度にとどめ、延会し、明２月21日午前９時30分から会議を開くことにいたしたいと思います。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長(岡　弘悟君)ご異議なしと認めます。よって、そのように決しました。

本日はこれにて延会いたします。お疲れさまでした。

（午後４時51分　延会）